

# 28PA-pm451

宇津薬師堂・格天井彩色画に描かれた植物に関する研究

○山路 誠<sup>1</sup>、糸賀 翔太<sup>1</sup>、山下 裕<sup>1</sup>、池田 満雄<sup>1</sup>、宇津 善博<sup>2</sup> (<sup>1</sup>日本薬大、<sup>2</sup>宇津救命丸)

【目的】宇津救命丸製造元の宇津家により建立された『宇津薬師堂』には、地元の絵師、牧野牧陵により描かれた格天井彩色植物画がある。演者らはこれらの植物画のいくつかが園芸種を含む薬用植物であることを明らかにしたが、種類のはっきりしない植物が少なくなく、それらは同薬師堂のある栃木県内に分布するものを描いたと思われた。こうした植物画がどのような意図で描かれ、またその内容および理由を明らかにする目的で、本彩色画に描かれた植物種について引き続き検討した。

【方法】『宇津薬師堂』格天井彩色画の撮影画像から植物の同定を試みた。また関東地方のフロラや詳細な園芸品種に関する文献による検討を加え、同薬師堂の役割や宇津家との位置づけ等について考察した。

【結果】前報告した植物のうちヤマユリにはムカゴが描かれていた。また前回ヤマハギとしたものを花序と小葉の形態によりマルバハギに改めたほか、ヤマノイモにおいては葉が対生しない箇所や、フヨウやシオンの茎が直立しないなど、天井画ならではの制約を要因とする相違も認められた。またほとんどの絵で緑色が喪失されていることが判明した。

【結論・考察】本薬師堂は人々の健康を願い建立されたもので薬師瑠璃光如来が祀られ、祭礼が執り行われるなど、地元根付いた施設となっている。本天井画は薬用植物中心に描かれたことには相違ないが、民間薬として用いていた地元の植物も描かれたと考えられる。今後、同地における植物利用の聴き取りや植生調査など、様々な情報を蒐集し、描画植物種の選択の意義・意図などを明らかにしたいと考えている。